

講義名	対1)19-都市交通計画/15-地域交通政策			授業形態	
担当教員	岸野 啓一	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

【主題】
日常生活や社会経済活動を支える都市交通の役割や必要性、計画の考え方に関する理解
【概要】
都市で暮らす人々が日常生活を便利に、快適に、安全に過ごすためには、道路や鉄道などの交通施設が体系的に整備され、多様な輸送需要に対応した交通機関が整備され、人々の多様なニーズに対応できる公共交通サービスが提供されることが求められる。
この授業では、都市生活と密接に関連する都市交通について、その役割や必要性について説明するとともに、交通需要の捉え方、計画の前提となる将来交通需要の予測の手法、自動車交通の円滑化に不可欠な道路の計画、鉄道・バスをはじめとする公共交通計画など、都市交通計画の概要について説明する。

到達目標

日常生活や社会経済活動を支える都市交通について、その役割や重要性を理解するとともに、現下の交通政策課題や政策立案プロセスについて理解を深めることを目標とする。
(1) 都市活動を支える都市交通体系について理解し、構成する各種交通機関の役割や特性について理解できるようになる。
(2) 調査・分析・需要予測・計画策定に至るプロセスや手法について理解できるようになる。
(3) 多様化・複雑化する都市交通の課題について理解するとともに、それらに対応するための技術革新の動向について理解できるようになる。
(4) これらを総合化し、都市交通問題に対する解決策を考える能力を養うことができるようになる。

提出課題

授業の進捗に合わせて、授業内容を復習するためのレポート課題や、授業内容をより深く理解するための演習問題を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次回の授業の際に講評や解説を行う。授業中に実施する演習問題については、その場で質問を受け、それに対して解説する。

評価の基準

試験（前半部の確認テスト、定期試験）を70点、平常点（出席点、レポート課題、演習問題）を30点、合計100点満点で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

積み上げ型の授業であり、かつ、授業時間中に簡単な演習問題を課すことがあるため、授業には必ず出席すること。
難しい形式は無いが、交通量の計算など自動演算で対応可能な演習を実施することがある。
なお、行政職の公務員を志望する学生は、交通計画も自給隊の主要な業務の一つであることから、本授業を履修することを推奨する。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.都市交通計画（第3版）.	新谷洋二、原田昇	技法堂出版	3520	9784765518482

その他

授業はパワーポイントを用いて行うが、プリント（パワーポイント資料、その他参考資料など）を配付する。
上記参考図書以外の参考文献を授業中に紹介することもある。

授業計画

1. ガイダンス、都市の発展と交通の発達
2. 都市交通計画とは
3. 交通実態調査（1）
4. 交通需要予測
5. 調査に基づく都市交通の現状分析
6. 交通需要予測
7. 道路について
8. 道路の計画
9. 前半部のまとめと確認テスト
10. 道路の渋滞対策（1）
11. 道路の渋滞対策（2）
12. 地域公共交通計画
13. 都市交通施設計画
14. 地区交通計画
15. 新しい技術と今後の都市交通計画

定期試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容はできる限り授業中に理解することが望ましいが、授業の内容を確認し理解を深めることを目的としたレポート課題を課す。
このため、授業内容の復習とレポート作成に週2時間程度を充てる必要がある。
また、都市交通計画に基づく交通サービスは、実生活における移動や交通機関の利用などを通じて享受するものであり、日常生活における様々な体験を授業で得た知識や知見と照らすことにより、授業の内容をより具体的に理解することや理解を深めることを期待する。
これを実践するために、週2時間程度、都市交通計画や地域交通政策と関連づけて日々の生活を見つめ直すことを求める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、本学のディプロマ・ポリシーと次の点で関連する。
「流体力学や熱力学の学生が卒業時に精通して身につけておくべき資質・能力」のうち、
知識を応用に変換することができる。論理的思考力を持った人材
創造力、新しい視点と豊かな発想を持った人材
「経済学部 経済学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、
世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
国や地方自治体との業務において授業に関連する内容にかかわった経験がある。実務を通じて得た知見などを授業で伝えることにより、授業内容に対する理解を深めたい。

備考